

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観や校内研修で研究授業を行うなど様々な場面で取組み状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に取り組み、期限内に提出できる。 ●新たに学習した内容と既習内容とのつながりが捉えられず、身につけた基礎的・基本的な知識・技能を応用する場面に課題が見られる。 ●学力の二極化が見られ、苦手を克服できず、学習意欲が低下する生徒もいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それを使ってより発展的な内容に挑戦できる。 ・授業の振り返り等を通して、学習内容の理解度を把握するとともに、その向上を目指す。	・生徒の習熟に合わせて、個別最適化した学びを行うために、課題の内容や出題の仕方を工夫する。 ・「めあて」に迫る授業展開を行うとともに、めあてと対応した振り返りを行う。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行い、学校全体で授業改善を実施する。	・朝の学習時間に、各教科の担当教員が作成した授業の進展に沿っている基礎・基本に絞った問題に取り組みませ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	・わかりやすい授業をこころがける教員の割合が増加し、生徒も肯定的な評価の割合が増加した。 ・校内研修においてICT機器の使い方や利用方法について取り上げた結果、学校評価アンケートでICT機器の利用が進んでいることが明らかとなった。 ・朝の学習時間に、教員が作成したプリントを使用することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着が進んだ。	昨年度課題であった、わかりやすい授業とICT機器の活用については一定の改善が見られた。今年度行った取り組みを元に次年度もさらなる改善を図っていききたい。ただ、学校評価アンケートにて、テストでは目標とする点数に近づく努力をしていますかとの問いに肯定的に答えた生徒の割合が昨年より少ないので、努力の方法がわからなかったのか、それともモチベーションが低かったのか分析し、それに応じた手当が必要である。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友だちの意見をしっかり聞いたりできる生徒が多い。 ●課題に応じて、資料から必要を読み取ったり、それをまとめる力が弱く、長い文章を読むことも苦手である。 ●自分の考えが相手に伝わるように文章を整えたり、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書いたりすることが苦手である。	・資料から課題に必要な情報を読み取り、順序立ててまとめることができる。 ・読書を通して、長い文章を読むことに慣れ、様々な表現を身に着けることができる。 ・相手に自分の考えが伝わるように表現を工夫するとともに、他者と自分の考えを比較しながらよりよい意見にしようと改善することができる。	・重要な部分に線を引かせるなど情報を的確に読み取る手立てを行う。 ・朝の読書の時間を充実させる。 ・授業において、ペアやグループ活動等を利用して、自らの考えをアウトプットする場面を設定する。 ・ICT機器を活用して、生徒の考えを共有する場面を増やす。	・学力向上確認プリントを活用し、思考力を問うような問題に取り組む場面を設定する。	・ICT機器を利用することで、生徒同士の意見の共有化が素早く行えるようになった。また、ペアやグループで一つの資料を作成する活動を行う教科も増えた。 ・問題文が長くなればなるほど、正答率が下がる傾向にあるので、引き続き情報を的確に読み取る部分には課題が見られる。	基本的な知識・技能の一つ一つは理解しているが、それぞれがどうつながっているのか意識できていない生徒も多い。そのため、新たに学習することと既習事項とのつながりを意識した授業展開が必要である。また、情報を的確に読み取る部分には課題があるので、重要な部分に線を引かせたり、学力向上確認プリントを今以上に活用したりするなど改善を図っていききたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に真面目に取り組むことができる。また、自主勉強ノートを使って主体的に学習することができる。 ●学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる部分に課題がある。	・授業開始前に準備が整い、チャイムの2分前に着席ができています。 ・習熟の程度に応じて、自分のできることを考え、粘り強く課題に取り組むことができる。 ・各授業において、めあてと対応した振り返りを行い、身についたこと、わからなかったことを把握し、次の学習につなげることができる。	・生徒会活動と連携し、PBSの取り組みを行い、2分前着席を促すことで、落ち着いた授業を開始する。 ・生徒の習熟に合わせて、個別最適化した学習を図る。 ・各授業において、めあてと対応した振り返りを行い、生徒の理解度を確保するとともに、授業改善につなげる。	・タブレットの学習アプリを活用し、生徒の習熟に合わせて、個別最適化された問題に取り組みませる。 ・朝の学習時間に、各教科の担当教員が作成した授業の進展に沿っている基礎・基本に絞った問題に取り組みませ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。また、定期テストにもよく似た問題を出題するなど継続的な取り組みを実施する。	・タブレットの学習アプリを活用した、生徒の習熟度に合わせて取り組みをスタートすることができた。 ・めあての提示や振り返りについては、学校全体で共有して取り組むことができた。 ・朝の学習時間に、教員が作成したプリントを使用することで、生徒の朝の学習に対するモチベーションが上がった。	学校評価アンケートにおいて、授業でのICT機器の利用は年々上昇しているという結果が出ている。次年度には新たな学習アプリの導入も予定されているので、タブレットを利用した生徒の習熟度に合わせた課題の工夫を行うことで、学習意欲を高めていききたい。